日本コミュニケーション障害学会
Japanese Association of Communication Disorders

第50回 日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

The 50th Meeting of
Japanese Association of Communication Disorders

テーマ

過去にまなび、未来へつなぐ

50th

予稿集

会期 2024年6月1日(土)・2日(日)

会場 帝京平成大学池袋キャンパス
〒170-8445 東京都豊島区東池袋2-51-4

会長 虫明 千恵子 東京都立北療育医療センター

第50回

日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

予稿集

The 50th Meeting of Japanese Association of Communication Disorders

会　期：2024年6月1日(土)・2日(日)

会　場：帝京平成大学 池袋キャンパス

会　長：虫明 千恵子
東京都立北療育医療センター 訓練科

主　催：日本コミュニケーション障害学会

第50回日本コミュニケーション障害学会
学術講演会へようこそ

第50回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
会 長　**虫明 千恵子**

第50回日本コミュニケーション障害学会学術講演会にご参加くださいました皆さまに準備委員を代表して心より感謝申し上げます。

本学会および学術講演会は1975年（昭和50）年の初冬、東京において「第一回 日本聴能言語士協会研究発表会」として産声を上げて以来、半世紀にわたり日本各地で開催を重ねました。50回目の節目となる今回は、会場を誕生の地である東京に戻し、「過去にまなび、未来へつなぐ」というテーマを掲げて準備いたしました。多様なバックグラウンドをもつコミュニケーションに関わる専門家が一堂に会し、学術的交流を深める場となるよう尽力なさった先達に感謝の意を込めました。常任理事会で企画していただいた学会50周年記念企画の座談会および講演では、先達の熱い思いと足跡に触れ、レガシーを若い世代につなぐ瞬間（とき）を皆さま方と共有したいと思います。

第50回を記念し、養老孟司氏にご講演いただきます。現代の情報化社会においてことばによって人と人とが心を通じ合わせることの難しさとその解法を養老先生ならではの語り口でお話しいただきます。特別講演では長年にわたり重症心身障害児者の診療に携わっていらした小児科医の山田美智子氏をお招きし、可能性に満ちて輝く「生」について語っていただきます。

教育講演は次の４名の各氏にお願いしました。中井昭夫氏には発達性協調運動症をキーワードとし、神経発達症の摂食嚥下、構音、学習上の問題など小児の言語・コミュニケーション支援に関わる職種が知りたい最新の知見をご教授いただきます。山口加代子氏には高次脳機能障害のある方のコミュニケーションを考える上で重要な側面である心理について、榎勢道彦氏には「F-words」というICFに由来する概念に基づき、障害のある子どもと家族のための療育の新しい考え方を、それぞれ臨床例を交えてお話しいただきます。西村ユミ氏には「現象学」という哲学的な視点で重い障害を持つ方とのコミュニケーションのあり方を考える機会をいただきました。

シンポジウムは濵田恵里子氏、坂田善政氏、作田亮一氏に事例をご紹介いただき、将来の臨床像や生活を見据えた支援のあり方をフロアの皆さまと一緒に考えます。

セミナーでは村西幸代氏が最重度失語の言語臨床について、豊富なご経験に基づいた具体的な方法をお話しくださいます。倉智雅子氏にはご自身が考案された「前舌保持嚥下」についてのお話しをうかがう機会をいただきました。また準備委員会では皆さまからの「問いかけ」から始まるベテラン臨床家との「語り場」を企画しました。長谷川和子氏、山本千敦氏、中村達也氏、五十嵐將隆氏と共に、せわしない日常をしばし忘れて皆さまご自身の過去・現在・未来に思いを巡らせるひとときになればよいと思います。

末筆になりましたが、会場を快く提供いただきました帝京平成大学池袋キャンパスのご関係の皆様にこの場を借りまして御礼申し上げます。オンデマンド配信に際して名誉会員の大石敬子先生に多大なご援助を賜りました。心より感謝申し上げます。そして本学術講演会開催にあたりご支援、ご尽力いただきましたすべての皆様に厚く御礼を申し上げます。

第50回日本コミュケーション障害学会
学術講演会の開催にあたって

日本コミュニケーション障害学会
理事長　**吉畑 博代**

第50回日本コミュニケーション障害学会学術講演会は、東京都立北療育医療センターの虫明千恵子学術講演会長のもとで、2024年6月1日（土）と2日（日）に、帝京平成大学池袋キャンパスで開催されます。

第50回という数字が示すように、日本コミュニケーション障害学会学術講演会は、前身の日本聴能言語学会から数えて、ちょうど50周年を迎えます。50年間という長きにわたり、学術講演会を開催し続けることができたのは、一重に会員の皆様方のご協力のおかげです。皆様方のご支援に感謝いたします。

東京で本学会の学術講演会が開催されるのは、2013年の第39回大会以来、11年ぶりです。この時には、直前になり予定していた会場が使えなくなったなどのハプニングがあり、運営に携わっている皆で大変慌てました。急遽、上智大学のいくつかの教室を会場として手配し、なんとか無事に学術講演会を実施することができました。また懇親会会場も大慌てで探したりなど、懐かしいながらも、つい最近の出来事のように思い出されます。

さて、今回の学術講演会は「過去にまなび、未来へつなぐ」というテーマで開催されます。虫明会長のご尽力のもと、養老孟司氏による記念講演、小児科医の山田美智子氏による特別講演、シンポジウム、4つの教育講演と3つのセミナーがあり、充実した内容になっています。どの企画もとても楽しみです。また学会50周年企画として、座談会と講演会を実施します。座談会は「学会の50年を振り返り、次の50年へ」と題し、歴代の理事長でいらした飯高京子氏、福田登美子氏、大井学氏、現在の常任理事から、研究推進委員会や倫理委員会担当の川合紀宗氏と、編集委員会担当の中村光氏、若手代表として学術事業部担当の山本小緒里氏に登壇いただきます。本学会に対する思いや今後の在り方などについて、お話しいただく予定です。講演では高見葉津氏に、50年という長きにわたるST臨床への思いをお話しいただきます。レジェンドの方々はじめご登壇いただく皆様には、お忙しい中、快くお引き受けいただき、大変ありがたく感謝しております。とても貴重な機会になりますので、会員の皆様方、ぜひ、現地に足を運んでいただき、学会の今後などについて、一緒に討論や質疑応答を行い、考えていくことができればと思います。皆様方のご参加をお待ちしております。

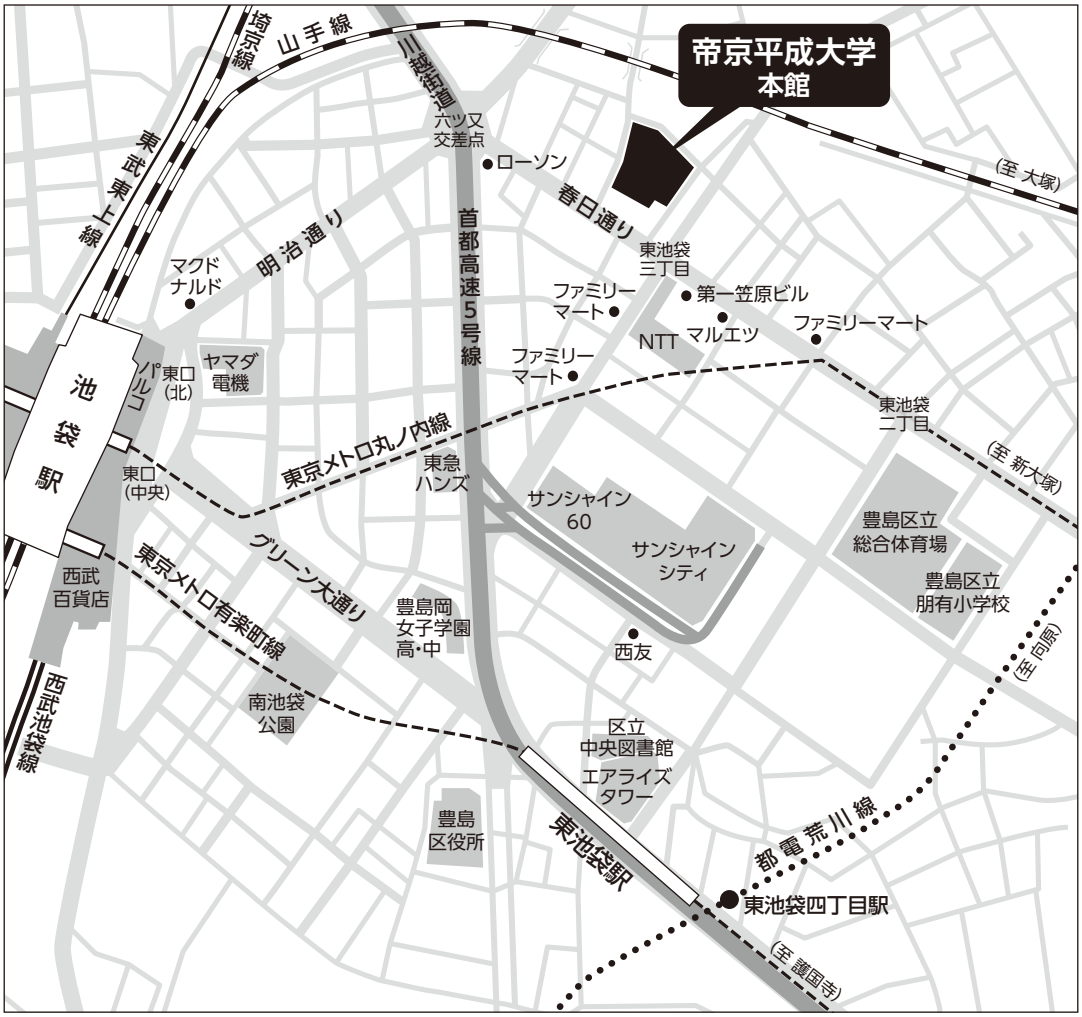
COVID-19の位置づけが5類感染症になり、コロナ禍も落ち着きを見せていますが、我々は、COVID-19の最中、学会などのオンライン開催のメリットを学びました。今回も、対面形式だけでなく、事後のオンデマンド配信も準備してくださっています。学術講演会当日に参加が難しい方や遠方にお住まい方などは、このようなメリットをぜひ活用していただきたいと思います。

なお、学術講演会のオンライン関連費用の援助にと大石敬子氏が多額のご寄付をしてくださいました。この場を借りまして、皆様への報告と大石氏への感謝の気持ちを伝えさせていただきます。

末筆になりましたが、本学術講演会の開催に向けて、虫明学術講演会長、事務局長の湯川祐子氏、準備委員会の方々には、お忙しい中、様々な工夫や準備を行っていただきました。御礼申し上げます。また会場を提供してくださった帝京平成大学とそのご関係の皆様に、心からの感謝を申し上げます。記念すべき第50回学術講演会の成功をお祈りしております。

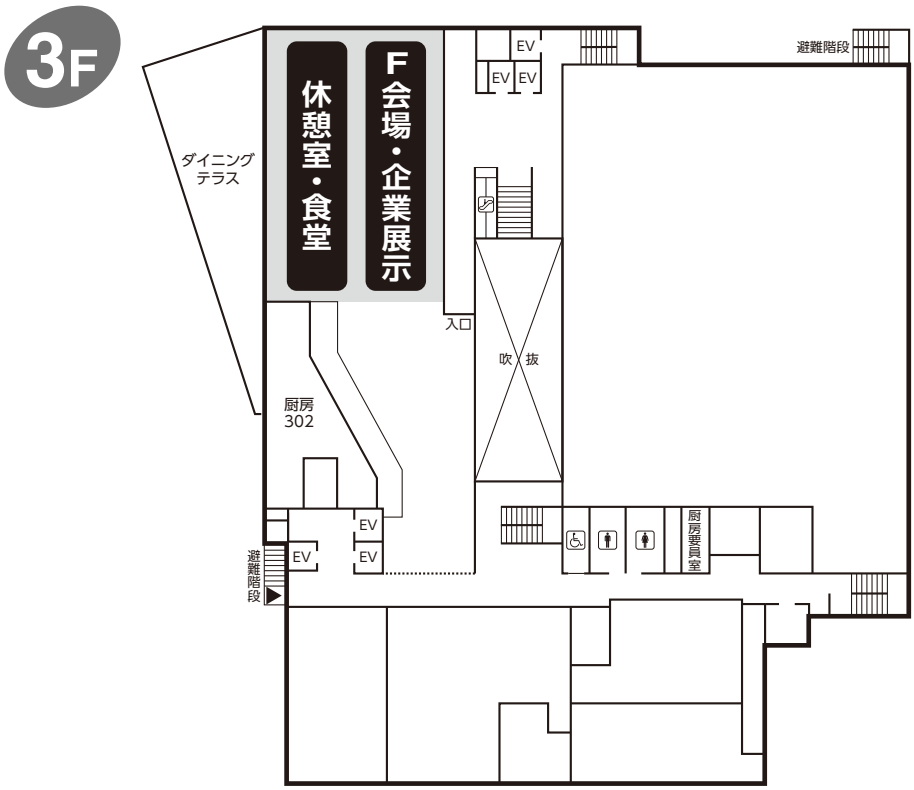
交通案内

会場：**帝京平成大学池袋キャンパス**（〒170-8445 東京都豊島区東池袋2-51-4）

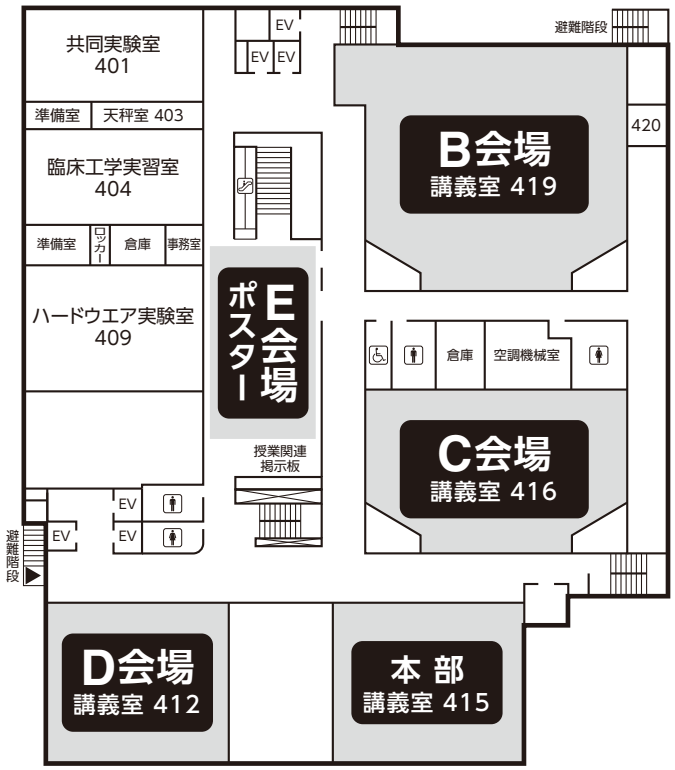


会場案内

1F
鍼灸院
接骨院
クリニック
鍼灸
臨床センター
企画カリキュラム
チーム
証紙自動
販売機
証明書
自動
発行機
メール室
倉庫
印刷室
総合情報技術センター
倉庫
倉庫
EV
EV
EV
EV
EV
避難階段
教員
出退勤
掲示板
避難階段
A会場
沖永記念ホール
音響調整室
照明調整室
総合
受付
クローク
コンビニエンスストア
出入口


3F
休憩室・食堂
F会場・企業展示
ダイニング
テラス
入口
吹抜
厨房
302
EV
EV
EV
EV
EV
避難階段
避難階段
厨房
要員室

4F


共同実験室
401
準備室
天秤室 403
臨床工学実習室
404
準備室
ロッカー
倉庫
事務室
ハードウエア実験室
409
EV
EV
EV
EV
EV
避難階段
避難階段
B会場
講義室 419
420
E会場
ポスター
倉庫
空調機械室
C会場
講義室 416
授業関連
掲示板
D会場
講義室 412
本 部
講義室 415

ご　案　内

■事前参加登録

事前参加登録をお願いします。「第50回日本コミュニケーション障害学会学術講演会」HP（https：//jacd50.secand.net/）（以下 HP）の「事前参加登録（必須）」からお申し込み願います。

尚、事前参加登録期間は2024年5月17日（金）までとなっております。

また、今回は事前参加登録のみになっており、当日参加申し込みは実施いたしませんのでご注意ください。

＊懇親会につきましては、不開催といたします。

(1) 参加費

会　員：10,000円（名誉会員の方は参加費不要です。お申込みの際、備考欄にその旨ご記入ください）

非会員：11,000円

学　生：1,000円（学生を本務とする方。社会人学生の方は会員／非会員扱いとなります。）

HP からの参加登録で「参加仮登録状態」となります。参加仮登録後、1週間以内に必ず参加費を下記口座へご入金ください。お振込がない場合は、登録を抹消することがあります。お振込みをもって参加登録が完了いたします。

(2) 振込先口座

【ゆうちょ口座】

口座番号：00900－9－198116

口座名義：日本コミュニケーション障害学会学術講演会

【ゆうちょ銀行】

店名：〇九九店（ゼロキュウキュウ店）　当座0198116

口座名義：日本コミュニケーション障害学会学術講演会

※入金の際の手数料はご自身でご負担いただきますようお願いいたします。

■参加証と領収書

(1) 当日ご来場の方

4月21日（日）までに参加費入金をお済ませの方には、5月上旬に参加証・領収書をご登録のご住所にお送りいたします。会場には「参加証」を必ずご持参ください。

4月22日（月）以降にご入金された方は当日「総合受付」で参加証・領収書をお渡しします。

※参加証ホルダーは、会場にて配布予定です。

(2) オンデマンド参加のみの方

学会終了後、ご登録の住所宛てに参加証・領収書をお送りいたします。

■当日参加の方へ

(1) 参加者受付

ご来場者数の把握のため、来場されましたら必ず「総合受付」にお越しください。参加証ホルダーを所定の場所からお取りいただき、会場ではご着用ください。

※初日に受付をお済ませいただいた方は、2日目は必要ございません。

(2) 予稿集販売

「総合受付」にて1冊1,000円で販売しております。お支払いは現金のみとさせていただきます。釣り銭が不要なようにご協力お願いいたします。

(3) クローク

両日とも、8時20分より大学入口の右手にクロークを設けますので、ご利用ください。

(4) 昼食および休憩

- 昼食は1階にコンビニエンスストアがございますのでご利用ください。
- 6月1日限定で、綾瀬ひまわり園べーく(東京都足立区)のパン、クッキー、ラスクの出張販売(10時半～13時)を予定しています。F会場(3階 休憩室・食堂)で販売しておりますので、ぜひご利用ください。ご好評の際には売り切れてしまう可能性もありますので、ご了承ください。
- 飲食は冲永記念ホール以外の、F会場(3階 休憩室・食堂)、B会場(講義室419)、C会場(講義室416)で可能です。それ以外の教室や建物のご利用は禁止となります。また、ゴミはできる限りお持ち帰りいただくようご協力をお願い申し上げます。

(5) 感染対策

引き続き、感染拡大防止へのご協力をお願いいたします。

■口頭発表セッション座長の方へ

(1) 受付について

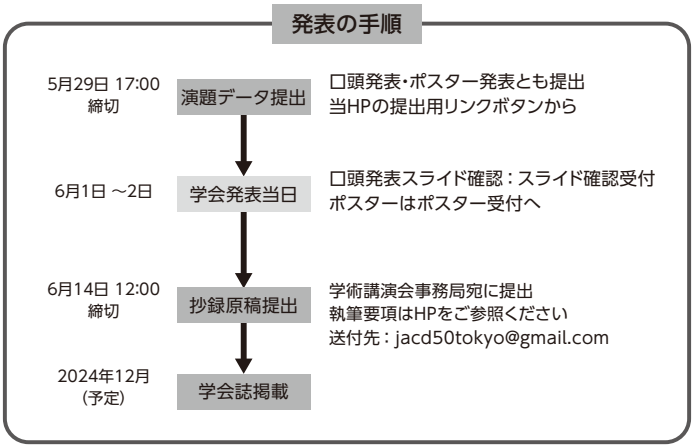
当日、ご到着確認のため、お着きになりましたら速やかに「総合受付(座長受付)」へお越しください。

(2) セッション進行等について

- 開始予定の10分前には、次座長席にお着きください。
- 1演題の発表は7分、質疑応答は3分です。
- 質疑応答では、発言者の所属・氏名を確認してください。

(3) 体調不良等により当日の参加ができない場合は、jacd50tokyo@gmail.com までご連絡をお願いいたします。

■口頭発表セッション演者の方へ



(1) 発表について

- 次演者は前もって会場内「次演者席」にご着席ください。
- PC の操作は原則ご自身（演者）でお願いします。操作支援・補助が必要な場合は各会場のスタッフにお申し付けください。
- 発表時間は7分、質疑応答は3分です。発表終了1分前と終了時に合図をいたします。終了時間を厳守してください。
- オンデマンド配信のため、録画いたします。

(2) 体調不良等により当日に発表できない場合は、jacd50tokyo@gmail.com までご連絡をお願いいたします。事務局で演題発表を取り消しいたします。

(3) 発表用データの確認

会場には PC を配置し、提出済みのデータファイルが保存されています。当日は同一のデータファイルを「総合受付（スライド確認受付）」に用意していますので、必要に応じて事前にご確認ください。

(4) 提出していただくデータ及び抄録原稿執筆について

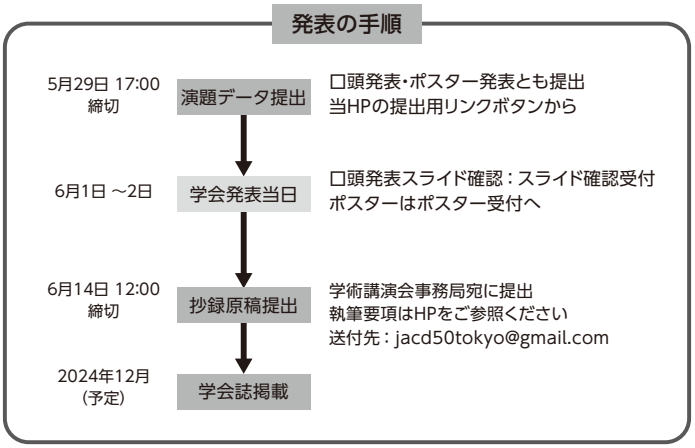
- **演題データ提出**

  対面＋オンデマンド配信での開催のため、演題データを5月29日（水）17時までにご提出ください。ご提出方法は HP「演題データ提出」の「データファイルの作成について」【口頭発表】に記載しています。

- **抄録原稿提出**

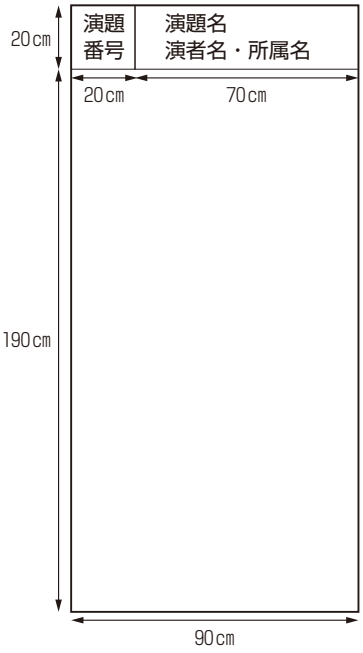
  学会誌「コミュニケーション障害学」用の抄録原稿を6月1日（土）から6月14日（金）正午までにご提出ください。HP の「演題データ提出」にある「抄録原稿提出について（学会後に学会誌掲載）」の「掲載用一般演題抄録原稿執筆要項（WORD）」をダウンロードし、手順にそって原稿を作成してください。データは jacd50tokyo ＠ gmail.com まで送付してください。抄録は「コミュニケーション障害学」（2024年12月末刊行予定）に掲載予定です。

■ポスター発表セッション演者の方へ



(1) 掲示作業

- E会場(4階 ポスター会場)で「ポスター受付」を行ってください。
- 所定のパネル(縦190㎝×横90㎝：1面)に貼り付けてください。掲示用の押しピン類は「ポスター受付」にあります。
- 貼付作業は1日目(6月1日)10時30分までに完了してください。
- 演題番号はパネル左上に貼付済です(20㎝×20㎝)。番号横に演題名・演者名・所属名(20㎝×70㎝まで)を掲示してください。



(2) 質疑応答

ポスター発表では座長はつけず、セッションごとに指定された時間帯を設け、参加者と自由にディスカッションする形式です。演者の方は、指定された時間帯には、必ずポスター前で待機してください。ポスターは2日間続けて掲示しておきますので、指定の時間帯以外のディスカッションもしていただけます。

- **質疑応答の指定時間**

6月1日 16時00分～16時30分：言語発達障害、失語症、認知症、摂食嚥下障害、構音障害

6月2日　9時00分～ 9時30分：聴覚障害、基礎研究・コミュニケーション、アセスメント、吃音

(3) 撤去作業

- 撤去作業は2日目（6月2日）の14：30～16：00の間にお願いします。
- 16：00を過ぎても撤去されないポスターは事務局で廃棄いたします。どうぞご了承ください。

(4) 体調不良等により当日に発表できない場合は、jacd50tokyo@gmail.com までご連絡をお願いいたします。事務局で演題発表を取り消しいたします。

(5) 提出していただくデータ及び抄録原稿執筆について

- 演題データ提出

  対面＋オンデマンド配信での開催のため、演題データを5月29日（水）17時までにご提出ください。ご提出方法はHP「演題データ提出」の「データファイルの作成について」【ポスター発表】に記載しています。

- 抄録原稿提出

  学会誌「コミュニケーション障害学」用の抄録原稿を6月1日（土）から6月14日（金）正午までにご提出ください。HPの「演題データ提出」にある「抄録原稿提出について（学会後に学会誌掲載）」の「掲載用一般演題抄録原稿執筆要項（WORD）」をダウンロードし、手順にそって原稿を作成してください。データは jacd50tokyo @ gmail.com まで送付してください。抄録は「コミュニケーション障害学」（2024年12月末刊行予定）に掲載予定です。

■分科会

本学会では、会員の自主的な研鑽を目的として、分科会、委員会、研究助成金の付与などの活動を推進しています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(1) 6月1日（土）10：00～15：00

- 重度重複障がいのある子どものコミュニケーションを考える分科会：D会場（講義室412）
- 展示会およびミニ講座があり、この分科会のみ参加される方も来場され、受付として「専用ブース」を設けております。学術講演会に参加登録されている方は「専用ブース」での受付は不要です。

(2) 6月1日（土）16：30～18：00

- 特別支援教育協働分科会：B会場（講義室419）
- 言語発達障害研究分科会：C会場（講義室416）
- 第6回口蓋裂言語検査講習会：D会場（講義室412）

■お知らせ

(1) 学会発表奨励賞授与式

6月2日(日)12:10～　B会場(講義室419)にて開催します。

(2) 常任理事・理事情報交換会

6月1日(土)18:10～19:10　講師控室(講義室410)にて開催します。

(3) 企業展示

F会場(3階 休憩室・食堂)にて企業展示・書籍販売を行います。

■その他

- 拾得物・遺失物のお届け、学会本部に御用の方は「総合受付」にお越しください。
- 参加者のお呼び出しには応じられません。

日 程 表

第1日目 6月1日(土)

	A会場 1F 冲永記念ホール	B会場 4F 講義室419	C会場 4F 講義室416	D会場 4F 講義室412	E会場 4F ポスター会場	F会場 3F 休憩室・食堂
			8:20～ 受付開始			
9:00	8:50～9:00 開会・会長挨拶					
	9:00～10:30 学会50周年記念企画 講演 子どもとその家族により添い、ともに歩む臨床をめざして ―52年の子どもの臨床を通して今、思うこと― 高見 葉津 座長：柴田 一浩	9:00～10:00 一般演題 失語症 （小児・成人）	9:00～10:00 一般演題 アセスメント		9:00 ～ 10:30 ポスター掲示準備	9:00 ～ 17:00 書籍展示・機器展示
10:00		聴覚障害	10:10～10:30 一般演題	10:00～15:00 重度重複障がいのある子どものコミュニケーションを考える分科会		
	10:40～12:10 教育講演 1 身体性からの神経発達症へのアプローチ ～神経発達症の理解と支援のブレークスルーを目指して～ 中井 昭夫 座長：石井 喜代香	10:40～12:10 教育講演 2 高次脳機能障害のある方の心理 山口 加代子 座長：佐藤 麻衣子	10:40～11:40 一般演題 吃音		10:30 ～ 18:00 ポスター展示	
11:00						
12:00			11:50～12:10 一般演題 摂食嚥下障害			
13:00						
	13:20～14:50 第50回記念講演 人と人とをつなぐ『ことば』 養老 孟司 座長：虫明 千恵子					
14:00						
15:00	15:00～16:30 学会50周年記念企画 座談会 学会の50年を振り返り、次の50年へ 司会：大伴 潔 吉畑 博代			16:00～16:30 言語発達障害、失語症、認知症、摂食嚥下障害、構音障害	質疑応答	
16:00	登壇者： 飯高 京子 福田 登美子 大井 学 川合 紀宗 中村 光 山本 小緒里	16:30～18:00 特別支援教育協働分科会	16:30～18:00 言語発達障害研究分科会	16:30～18:00 第6回口蓋裂言語検査講習会	ポスター展示	
17:00						
18:00						

第2日目　6月2日(日)

A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
1F 冲永記念ホール	4F 講義室419	4F 講義室416	4F 講義室412	4F ポスター会場	3F 休憩室・食堂

8:20～　**受付開始**（A会場のみ開場は9:00～）

9:00

登壇者：
長谷川 和子
山本 千敦
中村 達也
五十嵐 將隆
司会：工藤 芳幸

9:00～9:30
聴覚障害、基礎研究・コミュニケーション、アセスメント、吃音

9:10～10:00
一般演題
コミュニケーション支援

質疑応答

9:00～15:30
書籍展示・機器展示

10:00

9:30～10:30
セミナー 1
［参加者とつくる特別企画］
語り場
―ベテラン臨床家に聞いてみたい―

9:30～10:30
セミナー 2
最重度失語の臨床を掘り下げる ―できることから考える言語訓練―
村西 幸代
司会：宮本 光江

10:10～10:30
一般演題
家族支援・生活支援

9:00～14:30
ポスター展示

11:00

10:40～12:10
教育講演 3
『F-words』に基づく子どもの障害と支援の考え方
榎勢 道彦
座長：濵田 浩子

10:40～12:10
教育講演 4
現象学を手がかりにコミュニケーションを捉え直す
西村 ユミ
座長：下嶋 哲也

10:40～11:20
一般演題
自閉スペクトラム症

12:00

12:10
表彰・次期学会長挨拶

13:00

13:10～14:20
特別講演
豊かに生き果たすこと ―重症心身障害児・者と共に宝物に巡り合う旅路―
山田 美智子
座長：寺田 美智子

13:10～14:10
セミナー 3
「前舌保持嚥下」について
倉智 雅子
司会：左田野 智子

13:10～14:00
一般演題
言語発達

14:00

14:10～14:40
一般演題
構音障害

14:30～16:00
シンポジウム
長期事例にみる支援の実際と課題
シンポジスト：
濵田 恵里子
坂田 善政
作田 亮一
座長：石坂 郁代

15:00

16:00

16:00～ **閉会挨拶**

プログラム

第50回記念講演　6月1日㊏　13：20～14：50　　**A 会場**（1F 冲永記念ホール）

座長：虫明 千恵子（東京都立北療育医療センター 訓練科）

人と人とをつなぐ『ことば』

養老 孟司　　東京大学 名誉教授

学会50周年記念企画　6月1日㊏　9：00～10：30　　**A 会場**（1F 冲永記念ホール）

座長：柴田 一浩（岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター）

講　演

子どもとその家族により添い、ともに歩む臨床をめざして
―52年の子どもの臨床を通して今、思うこと―

高見 葉津　　訪問看護ステーション HUG ／元 都立北療育医療センター

6月1日㊏　15：00～16：30　　**A 会場**（1F 冲永記念ホール）

司会：大伴 潔（東京学芸大学 名誉教授）
　　吉畑 博代（上智大学大学院 言語科学研究科 言語学専攻言語聴覚研究コース 教授）

座談会

学会の50年を振り返り、次の50年へ

登壇者：

飯髙 京子　　国際友和会日本支部 顧問、アジア地区 連絡委員／
NPO 法人木馬の会（就労継続支援 B 型作業所担当）理事

福田 登美子　元 広島県立保健福祉大学（県立広島大学保健福祉学部）教授

大井 学　　金沢大学 子どものこころの発達研究センター 名誉教授、研究協力員

川合 紀宗　　広島大学 ダイバーシティ＆インクルージョン推進機構 教授
マネジメント部門長・ウェルビーイング推進室長

中村 光　　岡山県立大学 保健福祉学部 現代福祉学科 教授

山本 小緒里　千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション治療部
成人療法室 言語聴覚科

特別講演　6月2日㊐　13：10～14：20　　**A 会場**（1F 冲永記念ホール）

座長：寺田 美智子（元 東京都立府中療育センター）

豊かに生き果たすこと
―重症心身障害児・者と共に宝物に巡り合う旅路―

山田 美智子　　元 神奈川県立こども医療センター 重症心身障害児施設 施設長

教育講演1　6月1日㊏　10：40～12：10　　**A 会場**（1F 冲永記念ホール）

座長：石井 喜代香（姫路獨協大学 医療保健学部 言語聴覚療法学科）

身体性からの神経発達症へのアプローチ
―神経発達症の理解と支援のブレークスルーを目指して―

中井 昭夫　　武庫川女子大学 教育総合研究所／
武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科 教授

教育講演2　6月1日㊏　10：40～12：10　　**B 会場**（4F 講義室419）

座長：佐藤 麻衣子（東京医科大学 八王子医療センター）

高次脳機能障害のある方の心理

山口 加代子　　東京リハビリテーションセンター世田谷／
川崎市南部リハビリテーションセンター在宅支援室 アドバイザー

教育講演3　6月2日㊐　10：40～12：10　　**A 会場**（1F 冲永記念ホール）

座長：濵田 浩子（大阪発達総合療育センター 言語聴覚士）

『F-words』に基づく子どもの障害と支援の考え方

榎勢 道彦　　四天王寺和らぎ苑 リハビリテーション室 室長／理学療法士

教育講演4　6月2日㊐　10：40～12：10　　**B 会場**（4F 講義室419）

座長：下嶋 哲也（国立障害者リハビリテーションセンター学院 主任教官）

現象学を手がかりにコミュニケーションを捉え直す

西村 ユミ　　東京都立大学 健康福祉学部 教授

シンポジウム　6月2日㊐　14：30～16：00　　**A 会場**（1F 冲永記念ホール）

座長：石坂 郁代（北里大学 医療衛生学部 言語聴覚療法学専攻）

［ 長期事例にみる支援の実際と課題 ］

S-1　ライフステージの視点で考える脳性麻痺児への支援

西宮市立こども未来センター 診療事業課 主任言語聴覚士　濵田恵里子

S-2　小児期から成人期にわたり支援した吃音症の１例

国立障害者リハビリテーションセンター学院 言語聴覚学科 教官　坂田　善政

S-3　ライフステージから考える発達特性のある子どもと家族：
小児科医の立場から

獨協医科大学 医学部 特任教授／
埼玉医療センター 子どものこころ診療センター長　作田　亮一

セミナー1　6月2日㊐　9：30～10：30　　A 会場（1F 冲永記念ホール）

司会：工藤 芳幸（関西福祉科学大学 保健医療学部）

［ 参加者とつくる特別企画 ］

語り場
―ベテラン臨床家に聞いてみたい―

登壇者：

長谷川 和子　上伊那生協病院／ yui 訪問看護ステーション

山本 千敦　株式会社アルバ 個別支援室 言語聴覚士

中村 達也　社会福祉法人日本心身障害児協会
島田療育センターはちおうじ リハビリテーション科 言語聴覚士

五十嵐 將隆　医療法人社団永生会 永生病院 リハビリテーション部

セミナー2　6月2日㊐　9：30～10：30　　B 会場（4F 講義室419）

司会：宮本 光江（大阪警察病院）

最重度失語の臨床を掘り下げる
―できることから考える言語訓練―

村西 幸代　国保直営総合病院 君津中央病院 リハビリテーション科

セミナー3　6月2日㊐　13：10～14：10　　B 会場（4F 講義室419）

司会：左田野 智子（東京医科大学 八王子医療センター）

「前舌保持嚥下」について

倉智 雅子　国際医療福祉大学 成田保健医療学部 言語聴覚学科 教授

分　科　会

6月1日㊏　16：30～18：00　　C 会場（4F 講義室416）

言語発達障害研究分科会

6月1日㊏　10：00～15：00　　D 会場（4F 講義室412）

重度重複障がいのある子どもの
コミュニケーションを考える分科会

6月1日㊏　16：30～18：00　　D 会場（4F 講義室412）

第6回 口蓋裂言語検査講習会

6月1日㊏　16：30～18：00　　B 会場（4F 講義室419）

特別支援教育協働分科会

一般演題（口頭発表）

第1日目　6月1日(土)

失語症（小児・成人）　9：00～10：00　　B会場（4F 講義室419）

座長：廣實 真弓（埼玉医科大学病院）

1A-01　重度小児発語失行症例に対するアプローチと改善経過

社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院 リハビリテーション室　中島　栄子

1A-02　小児失語を呈した症例の経過と介入方法の検討

北里大学 医療衛生学部　秦　　若菜

1A-03　呼称訓練において母音ヒントが有効と考えられる重～中等度伝導失語の一症例

京都光華女子大学 看護福祉リハビリテーション学部
福祉リハビリテーション学科 言語聴覚専攻　英　　香里

1A-04　LINE 再獲得へのアプローチが言語機能の向上に繋がった失語症例

社会医療法人 ONE FLAG 牧リハビリテーション病院　松田　若奈

1A-05　失語症者の就労の実態 ～すももクラブ利用者への聞き取り調査～

地域活動支援センター すももクラブ　青木　智恵

1A-06　失語症者向け意思疎通支援者養成研修における情報伝達に関する意識について

（一社）広島県言語聴覚士会　三上　裕子

アセスメント　9：00～10：00　　C会場（4F 講義室416）

座長：大伴 潔（東京学芸大学）

1A-07　非言語性意味記憶検査の健常邦人への適応に関する検討

県立広島大学　津田　哲也

1A-08　文復唱を用いた言語発達障害（DLD）早期発見スクリーニング検査の開発1
―課題開発の背景と主眼―

東京医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野　野波　尚子

1A-09　文復唱を用いた言語発達障害（DLD）早期発見スクリーニング検査の開発2
―定型発達児の経年変化―

群馬パース大学　遠藤　俊介

1A-10　文復唱を用いた言語発達障害（DLD）早期発見スクリーニング検査の開発３
―DLD 児の反応特徴―

東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科　伊藤　敬市

1A-11　ナラティブを用いた言語評価１－その意義と日本版の開発

新潟大学 教育学部　入山満恵子

1A-12　ナラティブを用いた言語評価２－定型発達児のナラティブ再生課題の成績

総合病院 国保旭中央病院　金屋　麻衣

聴覚障害　10：10～10：30　C 会場（4F 講義室 416）

座長：北 義子（武蔵野大学）

1A-13　特別支援学級（知的）在籍児への聴力検査について

児童発達支援センター 富士見台 聴こえとことばの教室　伊集院亮子

1A-14　一側性難聴者に対する配慮に関する調査；
発症時期および難聴程度による違い

群馬パース大学 リハビリテーション学部 言語聴覚学科　岡野　由実

吃　音　10：40～11：40　C 会場（4F 講義室 416）

座長：原 由紀（北里大学）

1A-15　語末と助詞の非流暢性発話を認めた自閉スペクトラム症児の経過

熊本保健科学大学　井﨑　基博

1A-16　年表方式のメンタルリハーサル法における吃音改善に影響を及ぼす因子と
効果出現期間について －第２報－

社会医療法人生長会 ベルピアノ病院　岸村　佳典

1A-17　吃音のある言語聴覚士および言語聴覚士学生の就労・学修における
コーピング方略の調査

なるみ吃音相談室　横井　秀明

1A-18　吃音とクラタリングに対する日本人言語聴覚士養成校学生の態度
―国際調査データベースとの比較―

筑波大学 人間総合科学学術院 障害科学プログラム　陳　　兪安

1A-19　DC モデルに関する定量的検討と啓発教育の効果

国立障害者リハビリテーションセンター 研究所　酒井奈緒美

1A-20　オンライン環境を利用した吃音支援の経験

元 近畿大学病院　久保田　功

摂食嚥下障害　11：50～12：10　C 会場（4F 講義室 416）

座長：中沢 真実（東京都立東部療育センター）

1A-21　哺乳困難な児と両親にむけて新生児期から支援した言語聴覚士の関わり

秋田赤十字病院　佐藤千寿子

1A-22　患者と飴が主役になる嚥下訓練
―棒付き飴を用いた直接的嚥下訓練の適応と課題―

医療法人財団 立川中央病院　齋藤　尚子

第2日目　6月2日㈰

コミュニケーション支援　9：10～10：00　C 会場（4F 講義室416）

座長：松木 るりこ（ことばの相談室はる）

2A-01　テクノロジーとローテク

一般社団法人 結ライフコミュニケーション研究所　大神　和子

2A-02　心のスイッチに、アクセシビリティが素晴らしさを教えてくれた

一般社団法人 結ライフコミュニケーション研究所　高瀬　裕二

2A-03　コミュニケーション支援での声がけの工夫

一般社団法人 結ライフコミュニケーション研究所　高橋　宜盟

2A-04　iPad を使った会話を通して学校生活が充実した事例

一般社団法人 結ライフコミュニケーション研究所　二階堂　静

2A-05　アクセシビリティの活用により、
家電操作や文章入力、LINE の使用が可能となった重複障害の一例

なごみ訪問看護ステーション　瀬能佑布子

家族支援・生活支援　10：10～10：30　C 会場（4F 講義室416）

座長：森永 京子（NPO 法人メロディ デイケアステーションカルテット）

2A-06　保護者支援教室に参加した子どもの発達と保護者のストレスの関係

国際医療福祉大学 成田保健医療学部 言語聴覚学科　岩﨑　淳也

2A-07　重症心身障害児（者）入所施設におけるコスメ活動の経過

社会福祉法人 芳友 神戸医療福祉センターにこにこハウス　山本　英子

自閉スペクトラム症　10：40～11：20　C 会場（4F 講義室 416）

座長：水戸 陽子（北里大学）

2A-08　児童発達支援事業所における ASD 児の発達指数（DQ 値）変化
～ ABA による Low-Intensity 介入と親支援から（第 2 報）～

児童発達支援 / 保育所等訪問支援事業所「ママまま」　林　文博

2A-09　ABA 訓練と保育所等訪問支援による多動児のインクルード支援

児童発達支援 / 保育所等訪問支援事業所「ママまま」　林　文博

2A-10　高機能自閉スペクトラム症のある子どもの感情語理解
―感覚との関連から―

特定非営利活動法人 市川ことばの会 多機能型事業所ぷれも・市川ラボ　西　薫

2A-11　社会性伸長を目指した思春期集団療育にボードゲームを取り入れた実例

医療法人社団 淡路平成会 東浦平成病院　新居　莉奈

言語発達　13：10～14：00　C 会場（4F 講義室 416）

座長：原 惠子（上智大学）

2A-12　前言語期における物品操作の模倣能力と身振り・言語発達の関係
―機能的模倣と恣意的模倣の違い―

国際医療福祉大学成田病院 リハビリテーション技術部　米原　智優

2A-13　前言語期の段階にある幼児の知的発達の推移

武蔵野大学 人間科学部 人間科学科　小杉　裕子

2A-14　幼児期における音と意味の結びつきへの気づき
―音象徴と発達の関係に関する一考察―

上智大学大学院 言語科学研究科 言語学専攻 言語聴覚研究コース　今泉　真由

2A-15　定型発達幼児の助数詞理解の獲得過程とカテゴリー知識・語彙理解の関係

国際医療福祉大学クリニック 言語聴覚センター　佐藤のどか

2A-16　幼児期の語彙発達に関する調査研究 ―理解語彙と表出語彙の品詞別の様相―

北里大学 医療衛生学部　水戸　陽子

座長：淺野 ふみ（昭和大学）

2A-17　小学校言語障害通級指導学級からの紹介で当院を受診した症例の実態調査

昭和大学歯科病院 リハビリテーション室　多々良紘子

2A-18　発語困難な ASD 児の構音訓練におけるコミュニケーションの変化

栃木県立リハビリテーションセンター 施設部 通園療育課　佐藤　文子

2A-19　学齢期・重度運動障害性構音障害の改善に寄与した要因と課題の検討
～約６年の経過を踏まえ～

都立北療育医療センター 城北分園　鈴木　道子

一般演題（ポスター発表）

第1日目　6月1日(土)　E会場（4F ポスター会場）

16：00～16：30（質疑応答）

言語発達障害

1P-01　ASD 児における語用能力と行動問題生起との関連にかかる性差の探索

金沢大学 子どものこころの発達研究センター　水谷　柳子

1P-02　幼児はどのようにして人物の視点を明確にして語るか
―定型発達児と自閉スペクトラム症児を比較した検討―

新潟医療福祉大学 心理・福祉学部 心理健康学科　溝江　唯

1P-03　自閉スペクトラム症児に応用行動分析（ABA）を用いた事で
着席が可能となり注視して構音練習が行えた症例

国立病院機構 新潟病院 リハビリテーション科 言語聴覚士　下條　佳奈

1P-04　2～4歳の幼児の保護者の心配事と語彙発達の関係
―保護者へのアンケート調査からの検討―

聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 言語聴覚学科　小坂　美鶴

1P-05　言語発達遅滞児の初期言語発達に要求伝達系と相互伝達系が
与える影響について

国際医療福祉大学 成田保健医療学部 言語聴覚学科　佐々木香緒里

1P-06　前言語期自閉スペクトラム症児の要求手段獲得にむけた取り組み

筑波メディカルセンター病院 リハビリテーション療法科　上木　友海

1P-07　「ことばのつかいかたテスト」（TOPJC）における項目間順序関係の検討

山梨英和大学 人間文化学部　槻舘　尚武

1P-08　WISC-IV と LCSA の関連 ～就学後に必要な言語能力について～

地方独立行政法人 奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター　美馬　渉

1P-09　読み書き障害が疑われた境界域知能男児についての一考察

国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科　金子弥栄子

1P-10　読みの未熟さと構音との関係
―構音に誤りがみられる子とみられない子との呼称課題における比較―

姫路獨協大学 人間社会学群　迫野　詩乃

失 語 症

1P-11　左被殻出血により記号素性錯語を呈した皮質下性失語の１例

医療法人松籟会 河畔病院 リハビリテーション部　脇山鏡太郎

1P-12　進行性失語の「まんがの説明」の経時的な言語学的評価の試み

京都光華女子大学 看護福祉リハビリテーション学部
福祉リハビリテーション学科 言語聴覚専攻　関　　道子

認 知 症

1P-13　前期高齢者における認知機能の低下と口腔機能との関連について

昭和女子大学 人間社会学部 福祉社会学科　島田知奈未

摂食嚥下障害

1P-14　精神科主体の１病院における ST の課題

医療法人十全会 おおりん病院 リハビリテーション室　横山　典子

構音障害

1P-15　側音化構音の経験は臨床実践といかに関わるか
―当事者性がある ST のナラティブより―

関西福祉科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻　工藤　芳幸

第2日目　6月2日(日)　E会場（4F ポスター会場）

9：00～9：30（質疑応答）

聴覚障害

2P-01　聾学校における同僚性が聴覚障害教育の専門性へ及ぼす影響：
聴覚障害教員を対象とした質問紙調査の量的分析

東北大学 教育学研究科大学院　石川　美希

2P-02　難聴発見直後から就学までの支援の実態と課題
―全国難聴児の保護者アンケート調査から―

全国難聴児を持つ親の会　小森谷晴代

2P-03　聴覚支援学校在籍児の実態および地域支援の状況について
―全国調査の結果から―

東北福祉大学 教育学部　茂木　成友

2P-04　小学校難聴学級に在籍する聴覚障害児への保護者の教育支援について
～保護者への質問紙調査を通して～

つくば市立竹園東小学校　奥沢　忍

2P-05　難聴児に対する特別な配慮と通常学級との連携に関する一検討

岡崎聾学校　下村　竜大

2P-06　聴覚障害幼児のレジリエンスの特徴に関する一検討
―聴児との比較を通して―

福岡教育大学 教育学部 特別支援教育研究ユニット　喜屋武　睦

2P-07　キュードスピーチの手指記号（キュー・サイン）を併用した読話の効果の検討

昭和女子大学 人間社会学部 福祉社会学科　井坪　真悠

2P-08　キュードスピーチ併用下の聴覚障害児の音韻意識発達に
影響を与える要因の検討

国立特別支援教育総合研究所　渡部　杏菜

2P-09　聴覚障害児の音韻活用能力と英語語彙習得に関する一研究
―音韻ループの働きに着目して―

東京学芸大学 教職大学院 特別支援教育高度化プログラム　小林　汰門

2P-10　聴覚障害者の英語構文学習における自己効力得点の推移と
習得困難な単元の分類

筑波大学大学院 人間総合科学研究群 障害科学学位プログラム　筑後　紅音

基礎研究・コミュニケーション

2P-11　ことば・コミュニケーションの発達支援に寄与する
わらべうたの特性についての検討

広島国際大学 総合リハビリテーション学部
リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻　河村あゆみ

2P-12　大学生における Broad Autism Phenotype の程度が
英語科目の成績に及ぼす影響

愛媛大学 教育・学生支援機構　三浦　優生

アセスメント

2P-13　英語の読み書きスクリーニング検査のディスレクシア事例への適用
―視覚的情報処理に関して―

北里大学 医療衛生学部　上岡　清乃

吃　音

2P-14　発達障害を伴う小学４年生のトラックⅡ型吃音に対し
RASS に基づく介入を試みた症例の経過報告

医療法人佳正会 やまだこどもクリニック　増本　加奈

第50回記念講演

人と人とをつなぐ『ことば』

養老 孟司

東京大学 名誉教授

座　長：**虫明 千恵子**（東京都立北療育医療センター 訓練科）

6月1日(土) 13：20～14：50

A会場（1F 冲永記念ホール）

学会50周年記念企画

講　演

子どもとその家族により添い、ともに歩む臨床をめざして
―52年の子どもの臨床を通して今、思うこと―

高見 葉津　　訪問看護ステーション HUG ／元 都立北療育医療センター

座　長：柴田 一浩（岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター）

6月1日(土) 9：00～10：30

A 会場（1F 冲永記念ホール）

座談会

学会の50年を振り返り、次の50年へ

登壇者：

飯髙 京子　　国際友和会日本支部 顧問、アジア地区 連絡委員／
NPO 法人木馬の会（就労継続支援 B 型作業所担当）理事

福田 登美子　　元 広島県立保健福祉大学（県立広島大学保健福祉学部）教授

大井 学　　金沢大学 子どものこころの発達研究センター 名誉教授、研究協力員

川合 紀宗　　広島大学 ダイバーシティ＆インクルージョン推進機構 教授
マネジメント部門長・ウェルビーイング推進室長

中村 光　　岡山県立大学 保健福祉学部 現代福祉学科 教授

山本 小緒里　　千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション治療部
成人療法室 言語聴覚科

司　会：大伴 潔（東京学芸大学 名誉教授）
吉畑 博代（上智大学大学院 言語科学研究科
言語学専攻言語聴覚研究コース 教授）

6月1日(土) 15：00～16：30

A 会場（1F 冲永記念ホール）

一 般 演 題

（口頭発表）

1A

第1日目　6月1日土

B 会場（4F 講義室419）

C 会場（4F 講義室416）

第50回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
準 備 委 員

会　　長	虫明千恵子	東京都立北療育医療センター
事務局長	湯川　祐子	東京都立北療育医療センター
準備委員	池上　陽子	島田療育センター
	佐藤麻衣子	東京医科大学 八王子医療センター
	下嶋　哲也	国立障害者リハビリテーションセンター学院
	高倉めぐみ	うめだ・あけぼの学園
	豊田　隆茂	島田療育センター
	山根　美奈	東京都心身障害者福祉センター

（五十音順）

第50回 日本コミュニケーション障害学会学術講演会
予　稿　集

2024年4月23日発行

発　行　者：第50回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
会長　虫明 千恵子

開催事務局：〒114-0033 東京都北区十条台一丁目2番3号
東京都立北療育医療センター
E-mail：jacd50tokyo@gmail.com

出　　版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793　FAX：096-386-2025
https://secand.jp/

第50回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 事務局

東京都立北療育医療センター

事務局長：湯川 祐子

E-mail: jacd50tokyo@gmail.com